

## 授業力アップカード1

**問題提示の場面**で、問題提示を工夫しよう。

そのために

- ・ 問題はできるだけ子どもの心にゆれを起こすような面白そうな問題にしよう。
- ・ 提示の仕方を工夫しよう。

### 問題を出す方法

- ・ 挿絵の利用をする。
- ・ 板書する。
- ・ 画用紙に書いてはる。
- ・ 小分けして出す。
- ・ 教師が間違っただけを言ってみる。

#### 問題から問いを持たせる動機づけ

驚き「すごい」  
疑問「おやっ」「変だ」  
未知「知らないことだ」  
不思議「不思議だ」

### 問題の意味理解

- ・ 絵や文を補足する。
- ・ 問題文を読む。
- ・ 問題文を視写させる。
- ・ みんなで2回読む。
- ・ 必要なレディネスを考える足場として提示する。(丁寧になり過ぎないように気をつける。)
- ・ おたずね・数字・大事なことばに線を引いたり○で囲んだりする。

### 発問の工夫

「分かっていることは何ですか。」  
「求めるものは何ですか。」  
「図や式に書いて求めましょう」  
「前に習ったどの方法が使えるかな。」  
「いろいろな考え方で解いてみよう。」

## 授業力アップカード2

**自力解決の場面**で、支援を工夫しよう。

そのために、

- ・ 子どもがどのくらい解けているか把握しよう。
- ・ どういう方法で解けばよいかを指導しよう。
- ・ すべての児童が自分の考えをある程度もてるようにしよう。

- ・ 個人の見直しをとる時間は、3分間くらいとる。  
(たくさんの子どもがとけていないようなら、ストップして  
もう一度説明する。)
- (全員が同じ解き方をしている場合も、工夫しよう。)
- ・ 3分後、出来ない児童には**ヒント**を出す。



どこが困っているの。  
どこがわかれば解けるかな。

- ・ 解けない児童を集めて、黒板で小集団指導をする。
- ・ ヒントカードを与え、助言する。  
(ヒントカードは、あまり作りすぎず、与えるだけでなく  
説明もして与える。)
- ・ 机間指導  
(問題の意味が分かっているか確認する。)  
(このまま進んでよいか判断してやる。間違  
ていれば「なぜそう考えたか質問して思考  
の修正をする。)  
(誰から発表させるか考えながら回る。)

### 児童

—自力解決前に—

- ・ 絵、図、数直線、テープ図、  
式などを使って解く方法の見  
直しをもたせる。

—自力解決中に—

- ・ 出来たらホワイトボード  
に書く。
- ・ 黒板に書かせる。
- ・ 分からない人に教えてあ  
げる。
- ・ 確かめをする。
- ・ 別の方法を考える。

## 授業力アップカード3

**みんなで考える場面**で、児童に3人以上続けて発表させよう。

そのために

- ・ 教師が、子どもに考えさせる場面をきちんと設定する。
- ・ 教師が、児童の意見に対して、「分かりましたか。」「いいですか。」と安易に問いかけることはやめる。

教師の発問例

- ・ この方法は、正しいかな。
- ・ 自分でやってみたいと思うかな。
- ・ この考えでいいところは、どこかな。
- ・ 今の意見でわかりやすいところはどこかな。
- ・ 今の発表は、どこが工夫されていたかな。
- ・ 自分の考えと違う（似ている、同じ）ところはどこかな。
- ・ この考え方をどう思う。
- ・ なぜそう思うの。
- ・ ○○さんの考えを、もう一度言ってみてね。

(発表のさせ方) ・ 子供同士指名しあう。

- ・ 自由に自分の考えを立てて言う。

## 授業力アップカード4

### コミュニケーションを活発にさせるには？

#### よく表現できる子どもにするために

- ・ みんなに聞こえるように話す。
- ・ 1分間スピーチを朝の会で取り組む。
- ・ ノートに書いて前に出て発表する。
- ・ 最後まで言い切るようにする。
- ・ たくさんの人の方を見て話す。
- ・ 「～ですね。」「どうですか。」と反応を見ながら話す。
- ・ 班で話し合いをさせる。
- ・ 「わからないところはどこ」と聞く。
- ・ 友達の考えを自由に聞いたり、ノートを見たりしに行く。
- ・ 指名なしで話し合いをさせ、つなげていく。
- ・ 全員の手が挙がるような導入を工夫する。
- ・ わからないところを、子供同士で説明させる。
- ・ 全員発表する時間を設定する。

#### よく聞ける子どもにするために

- ・ 発表に対して反応をさせる。
- ・ 質問を考えながら聞く。
- ・ わかりやすいのは誰か考えさせるようにさせる。

#### よりよく情報交換できるために

- ・ 算数ブロックを操作して発表させる。
- ・ ペアで説明させる。
- ・ ホワイトボードを見やすいように書かせる。
- ・ 黒板に書かせる。(途中の考えがわかるように。)
- ・ 書いたものを読ませる。
- ・ 1時間のうちに必ず手が挙がるようにする。
- ・ 全員の手が挙がるような導入を工夫する。
- ・ 図・式・線分図などで書かせる。
- ・ 思考シート、友達との教え合いを大切にする。

## 授業力アップカード5

**振り返る場面**で、問題を解かせたり、授業の感想を書かせ評価に役立てよう。

- ・ 類題を解かせよう。

(ワークシートで)

(みんなで黒板で)

- ・ ノートに書かせよう。

わかったこと

できるようになったこと

友達の考え方のよいところ

友達に学んだ良いところ

気がついたこと

気をつけたいこと

次に学習したいこと

感想

簡単なしるし (◎ ○ △など)

## 授業力アップカード6

### 児童の発表の仕方は？

- ・ 語り始めのことばを使って話させよう。

#### 低学年

- まず
- つぎに
- そのわけは

#### 中学年

- まず
- つぎに
- そのわけは
- さらに
- たとえば
- いいかえると
- なぜなら

#### 高学年

- まず
- つぎに
- さらに
- そして
- たとえば
- ようするに（まとめていうと）
- いいかえると
- なぜなら
- しかし
- このように
- さらに

## 授業力アップカード7

### 児童の発表の仕方は？

- ・何を使って考えたかはっきりさせよう。

#### 低学年

- 絵で
- 式で
- 動かして
- ことばで

#### 中学年

- 絵で
- 式で
- グラフで
- テープ図で
- ことばで

#### 高学年

- 図で
- 絵で
- 表で
- グラフで
- 線分図で
- 式で

## 授業力アップカード8

### 児童の発表の仕方は？

・基本話型を身につけさせよう。

#### 低学年

#### 中学年

##### ①意見を述べるとき

- 「はい・・・です。どうですか」
- 「わたしは、・・・だと思えます。  
そのわけは、・・・だからです。」
- 「〇〇さんの考えと同じです。(ちがいます。)  
そのわけは、・・・だからです。」
- 「ここまででいいですか。」など、相手に確かめながら話そう。
- 目標・方法・結論の順に話す。

##### ②意見に対して

- おなじです。
- ほかにあります。
- つけたします。
- にています。
- わかりました。

##### ①意見を述べるとき

- 「はい・・・です。どうですか」
- 「そのわけは、・・・だからです。」

##### ②意見に対して

- おなじです。
- ほかにあります。
- つけたします。
- にています。
- わかりました。

#### 高学年

- 「わたしは、・・・だと思えます。  
そのわけは、・・・だからです。」
- 「〇〇さんの考えと同じです。(ちがいます。)  
そのわけは、・・・だからです。」
- 「ここまででいいですか。」など、相手に確かめながら話そう。
- 「〇〇さんの考えと似ていますが・・・。」
- 「〇〇さんの考えに付け加えます。」

##### ②意見に対して

- おなじです。
- ほかにあります。
- つけたします。
- わかりました。
- もう一度お願いします。
- 〇〇のところが聞き取りにくかったのもう一度お願いします。



## 授業力アップカード9

### 児童の発表の仕方は？

・子どもに気をつけさせる話すときや、聞くときのポイント  
は？

#### 《話すとき》

- 声の大きさに気をつけよう。
- しっかり口を開けて発音しよう。
- 聞き手を見て話そう。
- 矢印を書き入れたり、線を引いたりして説明しよう。
- 物を動かしながら説明しよう。

#### 《聞くとき》

- 話し手を見よう。
- 最後まで口をはさまないで聞こう。
- 自分と同じか、どこが違うか比べて聞こう。
- 質問を考えながら聞こう。
- 話す人がどんな方法で考えたのか確かめよう。  
(〇〇算、絵、図、線分図、数直線、表など)
- 自分の方法と同じところや、ちがうところを見つけよう。
- 聞きながら、分かったときには、うなづいたり、あいづちをうったりして、相手に自分が分かったことを伝えよう。
- 自分と同じ考えのときには、「～のところが同じです。」と発言したり、分からないことは質問しよう。